

# 森林生態系多様性基礎調査データ解析プログラム操作マニュアル

2026 年

- 目次 -

1. 森林生態系多様性基礎調査データについて .....	3
2. 森林生態系多様性基礎調査データ解析プログラムの使用上の注意 .....	5
3. プログラムの操作方法 .....	9
3.1. プログラムの動作環境 .....	9
3.2. プログラムの構成 .....	9
.....	9
3.3. プログラムのセットアップ .....	10
3.4. プログラムの起動 .....	11
3.4.1. 初期起動画面 .....	11
3.5. 一覧出力機能 .....	12
3.5.1. 条件設定(1) 調査期間の選択 .....	12
3.5.2. 条件設定(2) 出力項目の選択 .....	12
3.5.3. 条件設定(3) 出力項目の削除 .....	14
3.5.4. 条件設定(4) 出力項目の表示順の設定 .....	15
3.5.5. 条件設定(5) 抽出条件の設定 .....	16
3.5.6. 条件設定(6) 抽出条件の削除 .....	18
3.5.7. 一覧表形式での出力 .....	19
3.5.8. 地図表示形式での出力 .....	21

## 1. 森林生態系多様性基礎調査データについて

本解析プログラムは、森林生態系多様性基礎調査（平成 11 年度から 21 年度までは森林資源モニタリング調査として実施）の第 1 期調査（平成 11 年度～15 年度）、第 2 期調査（平成 16 年度～20 年度）、第 3 期調査（平成 21 年度～25 年度）、第 4 期調査（平成 26 年度～30 年度）、第 5 期調査（令和元年度～5 年度）の結果を利用しやすい形（各調査項目の結果をプロット単位で集計）にしたものです。

森林生態系多様性基礎調査は、持続可能な森林経営の推進に資する観点から、森林の状態とその変化の動向を全国統一した手法に基づき把握・評価することにより、森林計画における森林の整備に係る基本的な事項等を定めるのに必要な客観的資料を得ることを目的として実施されてきました。調査は 5 年間で全国を一巡するサイクルとしており、これまでに第 1 期～第 5 期分の調査が終了し、令和 6 年度から第 6 期調査を実施しています。本プログラムでは全国分のデータが揃っている第 1 期～第 5 期調査結果を対象としており、それ以降についてはデータの集計ができた段階で提供することを検討しています。なお、調査については「森林生態系多様性基礎調査 調査方法の概要」（「森林生態系多様性基礎調査データ利用ヘルプデスク」で閲覧可能→<http://www.forestbio.jp/index.html>）を参照してください。

本プログラムで利用可能な調査項目は次表のとおりです。

表 森林生態系多様性基礎調査データ解析プログラムの利用可能調査項目

大項目	項目名	内容	
区域	広域流域	調査プロットが位置する広域流域	
	森林計画区	調査プロットが位置する森林計画区	
	格子点 ID	調査プロットの ID 番号	
調査実施状況	調査実施日	調査を実施した年月日	
	調査実施年度	調査を実施した年度	
	到達不可能な理由	到達不可能だった場合、その理由 (別添の略記号表のとおり分類)	
	土地利用	計画格子点位置が森林の場合「森林」	
	調査の継続状況	第 1 期～第 2 期又は第 2 期～第 3 期、第 3 期～第 4 期、第 4 期～第 5 期での調査の継続状況	
	林分分割数	プロット内に複数の林相が含まれる場合の林分数 単一林分の場合は「1」	
地況調査	標高	プロット中心位置の標高 (m)	
	斜面方位	プロット中心で測定した斜面下方の方位	
	斜面傾斜	プロット中心を通り、斜面方位方向に沿って測定した傾斜角度	
	表層地質	(都道府県土地分類基本調査の表層地質図より判定)	
	土壌分類	(既存の資料および現地状況から判定)	
	局所地形	(現地での目視判定)	
	車道からの距離	プロット中心から、最も近い車道までの直線距離 (m)	
	集落からの距離	プロット中心から、最も近い集落までの直線距離 (m)	
被害情報	病虫害等	病虫害等の有無	あり=病虫害による被害あり、第 5 期調査からは「あり=病虫害に起因すると判断される異常あり」(いずれも以降の各項目に一つでも被害・異常があれば「あり」)、
		マツ被害・異常	あり=松くい虫の被害あり、第 5 期調査からは「あり=マツ類(ただしカラマツは除く)について、葉の変色・葉のしおれ・落葉・枝枯れ・虫の穿孔・フラス・樹液・虫の葉食等いずれかの異常あり」(いずれも現地での目視判定)
		ナラ被害・異常 ※第 3 期調査から	あり=ナラ枯れの被害あり、第 5 期調査からは「あり=ナラクリ類及びシイカシ類について、葉の変色・葉のしおれ・落葉・枝枯れ・虫の穿孔・フラス・樹液・虫の葉食等いずれかの異常あり」(いずれも現地での目視判定)
		その他病虫害等	あり=その他病虫害の被害あり、第 5 期調査からは「あり=スギ・カラマツ・その他樹種について、葉の変色・葉のしおれ・落葉・枝枯れ・虫の穿孔・フラス・樹液・虫の葉食等いずれかの異常あり」(いずれも現地での目視判定)
	気象害等	気象害等の有無	あり=被害あり、以降の各項目の一つでも被害があれば「あり」

大項目		項目名	内容
		風害	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		雪害	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		凍害	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		落雷	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		水害	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		火災	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		その他気象害	あり＝被害あり（現地での目視判定）
動物情報		シカ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		カモシカ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
動物情報		クマ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		イノシシ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		ノウサギ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		サル	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		ノネズミ	あり＝被害あり（現地での目視判定）
		その他動物	あり＝被害あり（現地での目視判定）
森林簿等調査		土地所有区分	国／民（国有林／民有林）の区分
		法令に基づく地域指定	法令に基づく地域指定の有無とその種類（別添の略記号表のとおり分類）
		法令以外の地域指定	法令以外の地域指定の有無とその種類（別添の略記号表のとおり分類）
		伐採方法の指定	法令等による伐採方法の指定の有無とその種類
		林齢	森林簿上の林齢（森林簿作成年から換算して記録）
施業履歴		施業履歴有無	あり＝施業あり、以下の項目まとめ
		皆伐	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		択伐	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		間伐	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		除伐	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		下刈	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		枝打	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
		その他履歴	あり＝施業あり、森林簿等で確認した過去5年以内の履歴有無
林分調査		優占樹種	材積割合において主要な樹種（現地での目視判定）
		更新方法	調査林分が更新された方法（現地での目視判定）
立木調査の集計		森林タイプ	胸高断面積割合30%以上の優占樹種に基づく森林タイプ区分
		haあたり蓄積	ha換算したプロット蓄積（m <sup>3</sup> /ha）
		枯損本数	ha換算した枯損木の本数（本/ha）
		剥皮本数	ha換算した剥皮本数（本/ha）
伐根調査		伐根数	過去5年以内に出現した伐根数（本/ha） ※第2期調査から
植生調査		プロットあたり種数集計	立木調査及び下層植生調査で確認された種数
		下層植生出現種数	下層植生調査で確認された種数
植生率		高木層植被率	高木層の樹冠投影面積割合（%）（現地での目視判定）
		亜高木層植被率	亜高木層の樹冠投影面積割合（%）（現地での目視判定）
		低木層植被率	低木層の樹冠投影面積割合（%）（現地での目視判定）
		草本層植被率	草本層の被覆面積割合（%）（現地での目視判定）
土壌侵食		土壌侵食度 ※第1、2期調査のみ	土壌侵食の程度（別添の略記号表のとおり分類）
		林床被覆率 ※第3期調査から	植物由来の被覆（草本層、根系、植物遺体、コケ等）が地表に占める割合（%）
		巨礫・岩率 ※第3期調査から	20cm以上の礫又は岩が地表に占める割合（%）
		土柱 ※第3期調査から	あり＝土柱あり 土柱：土壌侵食痕の一つ。小石、地表の根、枝葉の下の土層が雨滴侵食から保護され、柱状に残ったもの。
		リル	あり＝リルあり

大項目	項目名	内容
	※第3期調査から	リル：土壌侵食痕の一つ。地表の流水による溝状の侵食で深さ30cm未満のもの。
	ガリー ※第3期調査から	あり＝ガリーあり ガリー：土壌侵食痕の一つ。リルがさらに発達した溝状の侵食で深さ30cm以上に達したもの。

## 2. 森林生態系多様性基礎調査データ解析プログラムの使用上の注意

本プログラムのデータは、調査結果の一部を要約したもの（調査プロットに異なる林分が含まれる場合、項目によっては代表林分のデータのみを示しているなど）であるため、全国集計結果とは異なる結果が示される場合があります。また、第3期調査から調査方法が変更された項目もあるため、調査期間での比較を行う際には注意が必要です。

本プログラムを使用する際には、特に次表の点に注意してください。

大項目	項目	概要
区域	広域流域	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広域流域及び森林計画区の区域は若干の変動があるが、本プログラムでは、平成27年時点の区域情報に基づき、全調査期統一して区分している。</li> </ul>
	森林計画区	
調査実施状況	到達不可能な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 第1期・第2期調査と、第3期以降の調査とで到達不可能理由の略記号が異なる。各調査期の略記号は別添を参照。</li> </ul>
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全国の格子点に対し、森林か否かを示す。</li> <li>✓ 各調査期間の表示方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期：調査を実施した点を森林としている。</li> <li>・第3期：調査を実施した結果及び計画上の格子点（全国を4km四方の格子線に分割したその交点）の一部を衛星画像等により判読した結果である。</li> <li>・第4期以降：計画上の格子点すべてを衛星画像等により判読した結果である。</li> </ul> </li> </ul> <p>※計画上の格子点位置と実際の現地調査プロットの位置は、必ずしも完全一致しないため、第3期・第4期については、現地調査の結果と必ずしも一致しない場合があることに留意が必要である。</p>
	調査の継続状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 調査が実施されたプロットの情報のみを出力する場合は、検索条件に「調査の継続状況&lt; NULL」（調査未実施点以外のプロットを抽出）を加える必要がある。抽出条件を設定する方法は、「3.5.5. 条件設定(5) 抽出条件の設定」参照。</li> </ul>
地況調査	表層地質	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ リストに該当の無い入力は、すべて「その他」としている。</li> </ul>
	土壌分類	
被害情報	マツ被害・異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本項目は現地での目視により被害の有無を判定しており、被害の原因が<u>松くい虫（マツ材線虫病）によるものか、それ他の要因によるものかの特定は行っていない。</u></li> <li>▶ 第5期以降は、マツ類（ただしカラマツは除く）について、松くい虫に限らず、病虫害に起因すると判断される葉の変色・葉のしおれ・落葉・枝枯れ・虫の穿孔・フラス・樹液・虫の葉食等の異常を記録。</li> </ul>
	ナラ被害・異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本項目は現地での目視により被害の有無を判定しており、被害の原因が<u>カシノナガキクイムシによるものか、その他の要因によるものかの特定は行っていない。</u></li> <li>▶ 第5期以降は、ナラクリ類及びシイカシ類について、カシノナガキクイムシに限らず、病虫害に起因すると判断される葉</li> </ul>

大項目	項目	概要
		の変色・葉のしおれ・落葉・枝枯れ・虫の穿孔・フラス・樹液・虫の葉食等の異常を記録。
動物情報	シカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 調査期間毎の調査方法及び集計方法の違いにより、<u>第1期・第2期と第3期以降とで単純な被害状況の比較はできない</u>ことに留意が必要である。</li> <li>✓ 各調査期間での調査方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期：立木に被害が認められる場合、プロットごとに概況として動物種と被害の程度を記録する。</li> <li>・第3期以降：現地での目視判定により、プロットごとに剥皮・食痕・糞・足跡・体毛・ブラウジングライン（シカのみ）・その他の有無を記録するとともに単木ごとの被害等も記録する。</li> </ul> </li> <li>✓ 各調査期間での集計方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期：被害の記録があった場合、被害あり</li> <li>・第3期以降：「剥皮」、「食痕」、「ブラウジングライン」のいずれかの記録があった場合、被害あり</li> </ul> </li> </ul>
	カモシカ	
	クマ	
	イノシシ	
	ノウサギ	
	サル	
	ノネズミ	
	その他動物	
森林簿等調査	林齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 森林簿林齢が未入力の場合は空欄となっている。</li> <li>➤ プロット内に複数の小班が含まれる場合は、面積最大の小班の情報が記録されている。</li> </ul>
林分調査	優占樹種	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 林分分割されているプロットの場合は面積最大の林分（同面積の場合は林分番号が若い方）の情報が表示される。</li> </ul>
林分調査 （立木調査の集計）	haあたり蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 計算対象には枯死木を含んでいること等により、各地域の収穫予想表等の既存の数値と異なる場合があることに留意が必要である。</li> <li>➤ 測定本数が少ない等の理由で、樹高未測定木の樹高推計ができなかったプロットは、材積計算されていない。</li> <li>➤ タケの材積は計算されていない。</li> <li>➤ 立木の直径階に応じて調査面積が異なるため、ha換算にあたっては以下のとおり算出している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 胸高直径 1cm以上5cm未満の立木（測定面積0.01ha）×100</li> <li>✓ 胸高直径 5cm以上18cm未満の立木（測定面積0.04ha）×25</li> <li>✓ 胸高直径 18cm以上の立木（測定面積0.10ha）×10</li> </ul> </li> <li>➤ プロット内に非森林区域が含まれる場合、一様に森林であるものとして、前項の調査面積ごとに面積を拡大して算出している。</li> </ul>
	枯損本数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ タケ類の枯損本数は含まれない。</li> <li>➤ haあたりに換算した数値。ha換算及び非森林区域の扱いは「haあたり蓄積」と同じ。</li> </ul>
	剥皮本数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ タケ類の剥皮本数は含まれない。</li> <li>➤ haあたりに換算した数値。ha換算及び非森林区域の扱いは「haあたり蓄積」と同じ。</li> </ul>
伐根調査	伐根数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 伐根の直径階に応じて調査面積が異なるため、ha換算にあたっては以下のとおり算出している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 伐根径 5cm以上18cm未満の立木（測定面積0.04ha）×25</li> <li>✓ 伐根径 18cm以上の立木（測定面積0.10ha）×10</li> </ul> </li> <li>➤ プロット内に非森林区域が含まれる場合、一様に森林である</li> </ul>

大項目	項目	概要
		ものとして、前項の調査面積ごとに面積を拡大して算出している。
植生調査 (プロットあたりの種数集計)	立木竹含む出現種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 立木の種数について、立木の直径階に応じて調査面積が異なるため、プロット全体に存在する種数を示したものではないことに留意が必要である。</li> <li>✓ 測定対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小円 (0.01ha) : 胸高直径 1.0cm 以上の毎木</li> <li>・中円 (0.03ha) : 胸高直径 5.0cm 以上の毎木</li> <li>・大円 (0.06ha) : 胸高直径 18.0cm 以上の毎木</li> </ul> </li> <li>➤ タケ類について、第2期までは確認された種を全て記録していたが、第3期以降は、調査対象がマダケ・モウソウチク・ハチクの3種のみに変更されている。</li> <li>➤ 第3期以降、小径木が小円部・中円部全体に密生している場合には、胸高直径 1cm 以上 5cm 未満の小径木の立木調査について、小円の1/4の面積に限って実施できるよう調査方法が変更された。そのため、第3期以降は一部のプロットについて、小径木の調査面積が縮小している。</li> </ul>
	下層植生調査出現種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 下層植生の種数について、期毎の下層植生の調査面積の違いにより、<u>第1期・第2期と第3期以降とで単純な種数の比較はできない</u>ことに留意が必要である。</li> <li>✓ 各調査期での調査面積 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期 : プロット全体 (0.1ha)</li> <li>・第3期以降 : 植生調査区内 (約 0.0024ha×2 区 = 0.0048ha)</li> </ul> </li> </ul>
植生調査 (植被率)	高木層	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 調査期間毎の調査範囲の違いにより、<u>第1期・第2期と第3期以降とで単純な比較はできない</u>ことに留意が必要である。</li> <li>✓ 各調査期間での調査範囲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期 : 小円内</li> <li>・第3期以降 : プロット全体</li> </ul> </li> <li>➤ 林分毎に調査される項目であり、プログラムでは面積最大の林分の情報を採用している。林分分割のあるプロットでは、プロット全体の植被率を示してはいないことに留意が必要である。</li> </ul>
	亜高木層	
	低木層	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 調査期間毎の調査範囲の違いにより、<u>第1期・第2期と第3期以降とで単純な種数の比較はできない</u>ことに留意が必要である。</li> <li>✓ 各調査期間での調査面積 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期・第2期 : 小円内</li> <li>・第3期以降 : 植生調査区内 (約 0.0024ha×2 区 = 0.0048ha)</li> </ul> </li> <li>➤ 第1期・第2期は林分毎に調査されており、プログラムでは面積最大の林分の情報を採用している。林分分割のあるプロットでは、プロット全体の植被率を示してはいないことに留意が必要である。</li> </ul>
	草本層	
土壌侵食	土壌侵食度	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第1期・第2期の調査項目であり、第3期以降では実施されていない。</li> <li>➤ 現地で調査員が目視判定する項目であり、第1期においては判定基準の理解浸透が不十分な場合があった。このため、第1期では実際以上に土壌侵食度が高くなっているプロットが</li> </ul>

大項目	項目	概要
		ある。
	林床被覆率	▶ 第3期から追加された調査項目であり、第1期および第2期では実施されていない。
	巨礫・岩率	
	土柱	
	リル	
	ガリー	
その他	全項目共通	▶ 各データにおいて誤記入等に起因すると思われる異常値があることに留意し、データの解析等に際してはこれらの値について注意する必要がある。
	格子点の位置情報	▶ 「出力 (Excel)」で出力される格子点の緯経度座標 (世界測地系)、及び「地図表示 (KML)」メニューで出力される地図上の格子点位置は度表示の小数点以下2桁に省略しており、実際の格子点から0～数100mのずれがある。実際の調査プロット位置は非公開である。
	森林簿調査項目	▶ 林況が変化している場合があることや森林簿更新のタイミング等により現地の調査結果とは異なる場合がある。

### 3. プログラムの操作方法

#### 3.1. プログラムの動作環境

本解析プログラムを実行するためには、以下の環境が必要です。

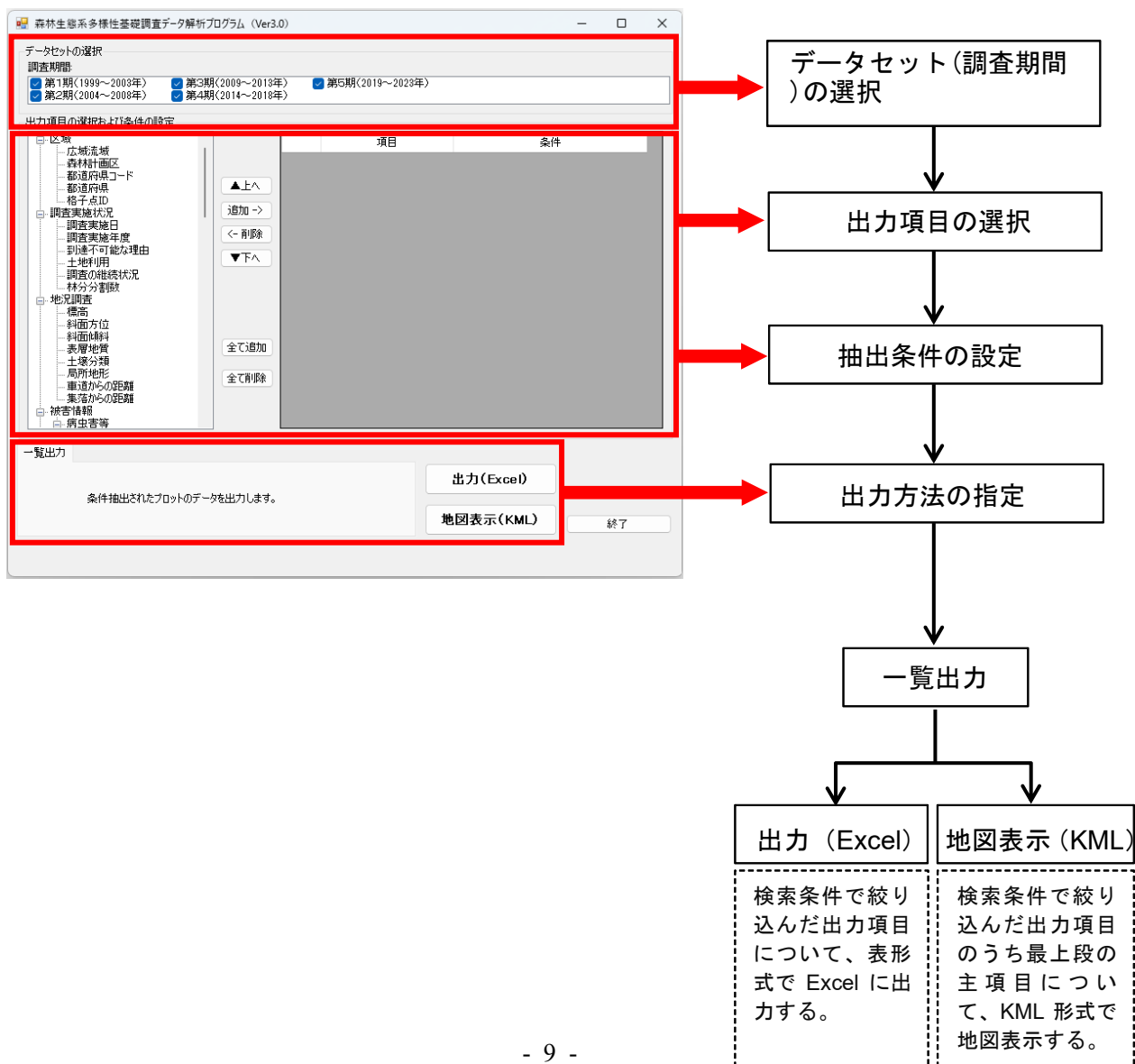
動作環境

- OS : Windows10
- Microsoft .NET framework (Ver.2.0 以上)
- Microsoft Excel (Microsoft 社)
- 地図表示を行う場合、別途 Google Earth Pro (Google 社)等の KML ファイルに対応した地図表示ソフトのインストールが必要です。

※関連するファイル全てで、65MB 程度ありますのでお使いの機器の容量にご注意ください。

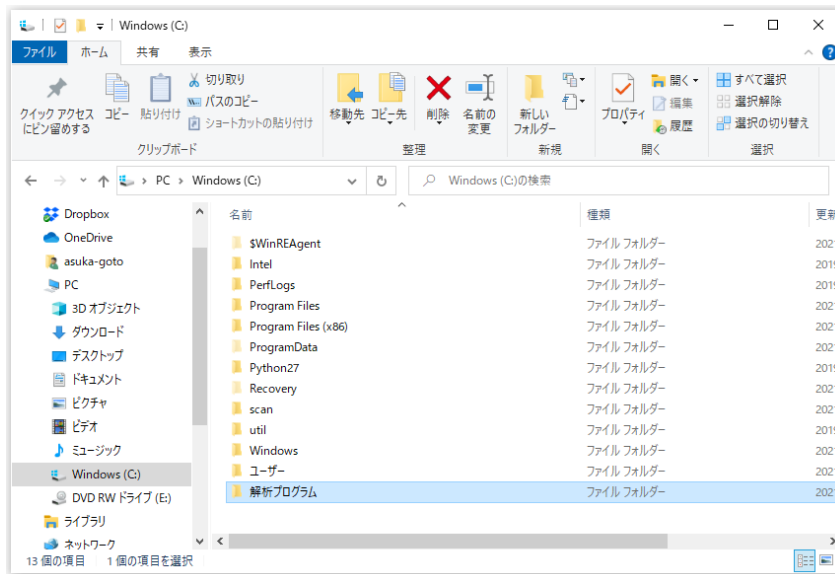
#### 3.2. プログラムの構成

プログラムには一覧出力機能を搭載しており、抽出条件で絞り込んだ出力項目について、一覧表 (Excel) 形式または、地図表示 (KML) 形式で出力することができます。

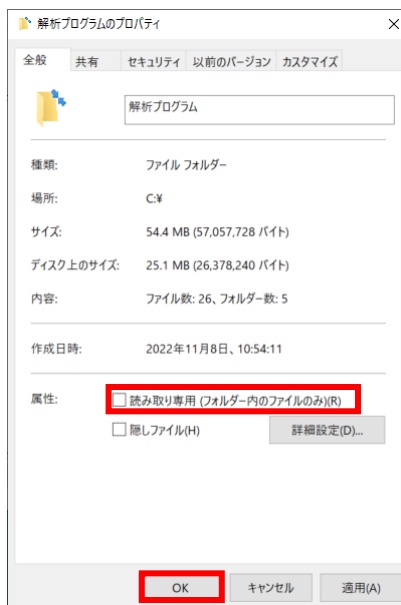


### 3.3. プログラムのセットアップ

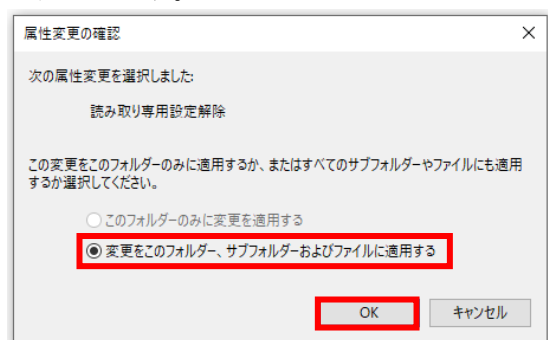
- ① 【解析プログラム】フォルダを選択し、Cドライブの直下にコピーします。



- ② 【C:\解析プログラム】フォルダを右クリックしてプロパティを選択し、プロパティウィンドウを開きます。
- ③ 「読み取り専用」のチェックを外し「OK」をクリックします。



- ④ 「変更をこのフォルダー、サブフォルダーおよびファイルに適用する」を選択し、「OK」をクリックします。



- ⑤ 【C:\解析プログラム\ショートカット】フォルダにあるショートカットアイコンをデスクトップにコピーします。

※ 上記で作成したショートカットでプログラムが起動しない場合は、【C:\解析プログラム】にある「解析プログラム.exe」を右クリックしてショートカットを作成してください。

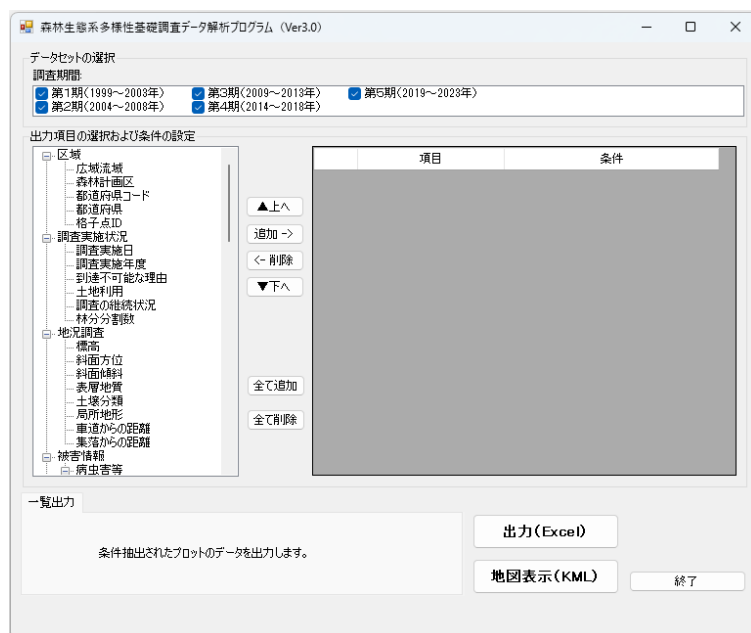
### 3.4. プログラムの起動

デスクトップの森林生態系多様性基礎調査データ解析プログラムのアイコンをダブルクリックします。



#### 3.4.1. 初期起動画面

下記の様な画面が表示されます。

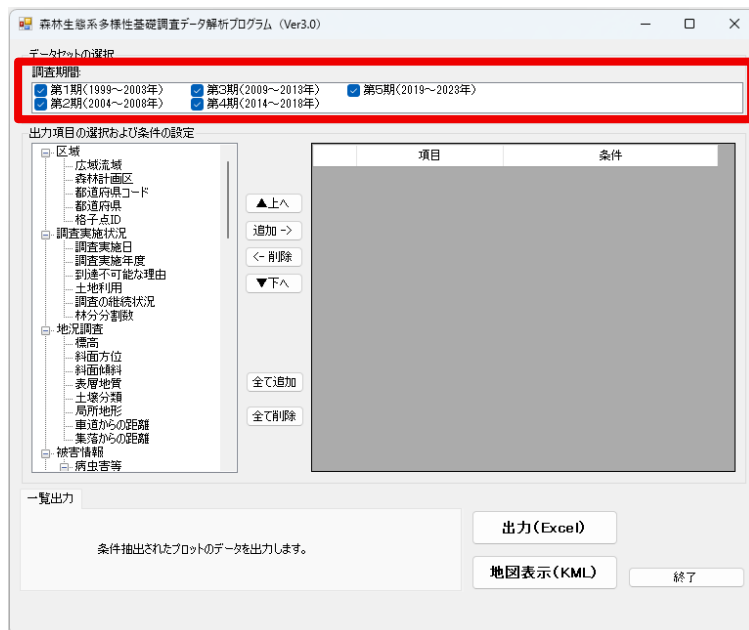


### 3.5. 一覧出力機能

選択した項目の情報を Excel に出力、地図表示 (KML 形式) する事ができます。一覧出力を行う際は、出力する条件 (調査期間、出力項目等) の設定を行ってください。条件の設定方法は、3.5.1 ~3.5.6 を参照してください。

#### 3.5.1. 条件設定(1) 調査期間の選択

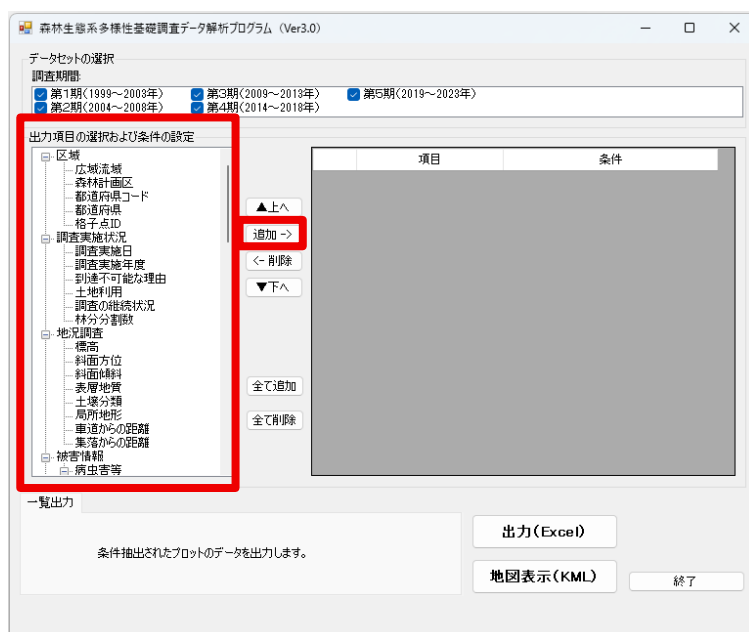
出力したい調査期間をチェックします (複数選択可能)。



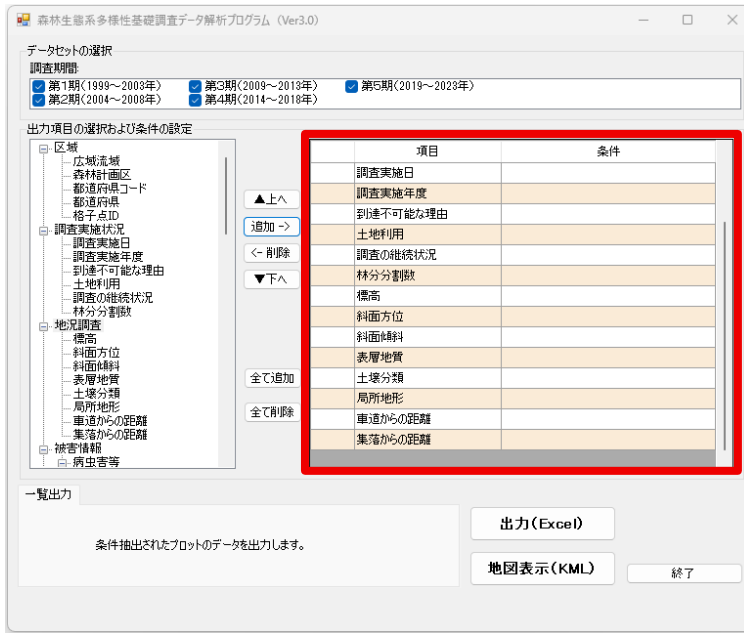
#### 3.5.2. 条件設定(2) 出力項目の選択

① 出力したい項目をリストから選択し、追加ボタンをクリックします。

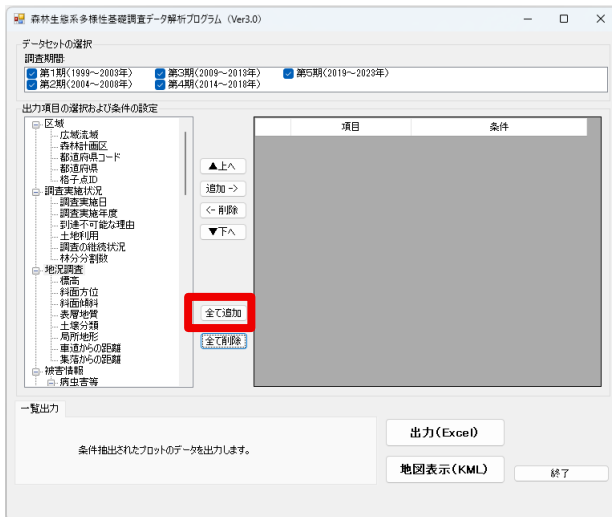
※ 「区域」や「調査実施状況」等の大項目を選択すると、選択した大項目以下の全ての項目が選択済み出力項目に登録されます。



② 出力項目に登録されます。



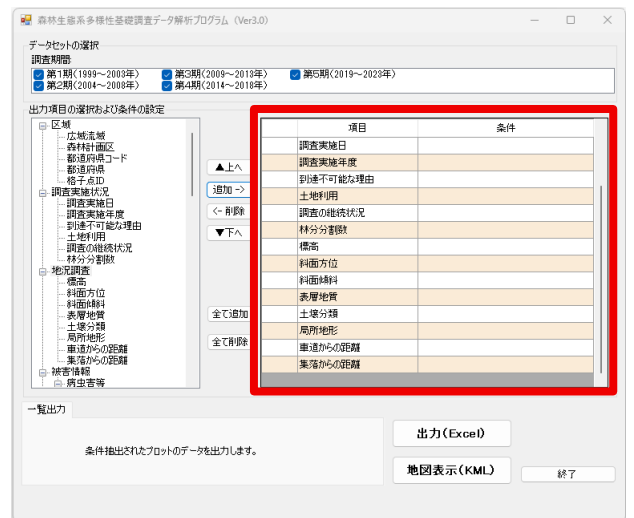
※ 全て追加ボタンをクリックすると全ての出力項目が選択済み出力項目リストに追加されます。



↓

【全て追加】  
 クリック

→



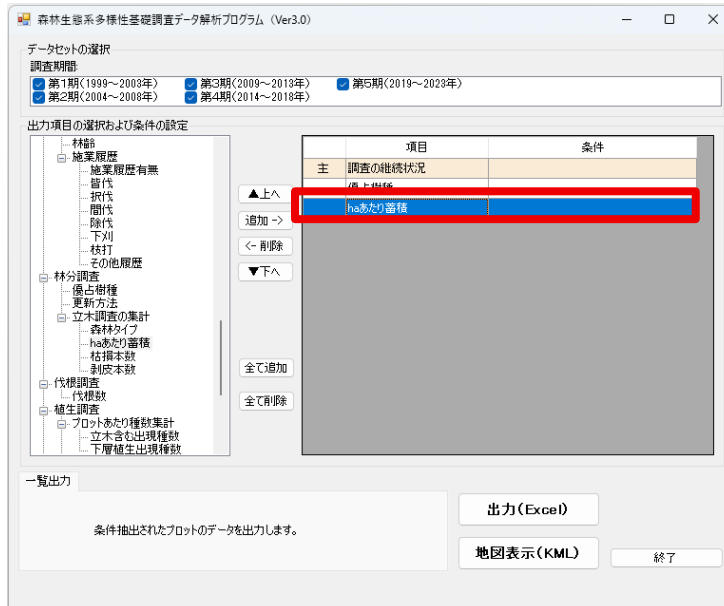


### 3.5.4. 条件設定(4) 出力項目の表示順の設定

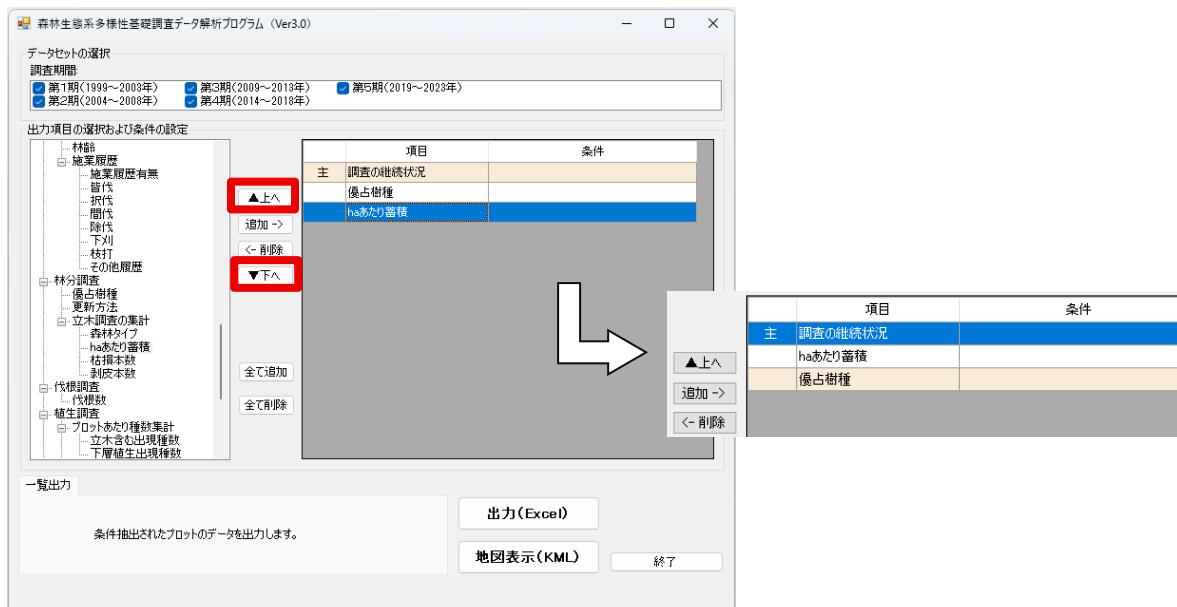
Excel ファイル形式で出力する場合は、出力項目リストの順番が、出力される一覧表の列の順番となります。また、地図表示形式で出力する場合は、出力項目リストの最上段にある項目のみが出力されます。

出力する一覧表の項目順を設定したい場合や、地図表示形式で出力する場合には、以下の設定を行ってください。

- ① 順番を変更したい項目を選択済み出力項目リストから選択します。



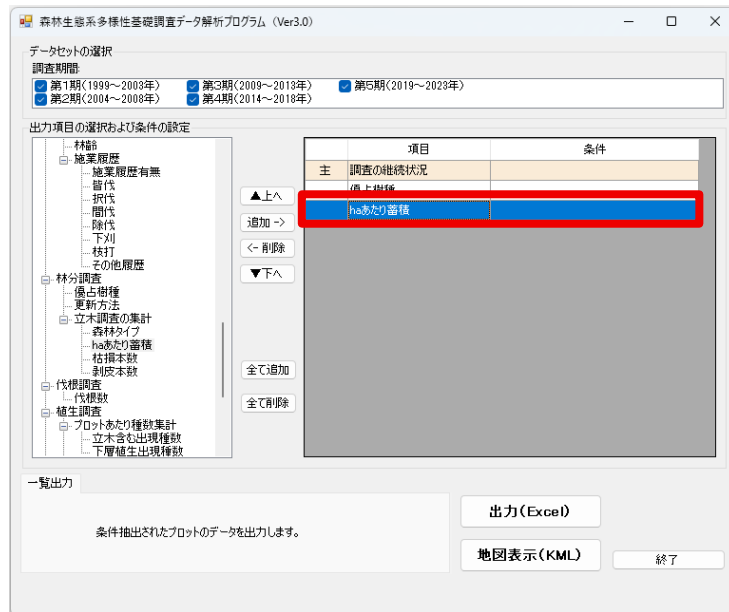
- ② 選択した出力項目を上に移動したい場合は「▲上へ」ボタン、下に移動したい場合は「▼下へ」ボタンをクリックします。



**Point** 地図表示形式で出力したい項目は最上段（「主」項目）に移動させます。

### 3.5.5. 条件設定(5) 抽出条件の設定

① 抽出条件を設定したい項目の行をダブルクリックします。



**Point**

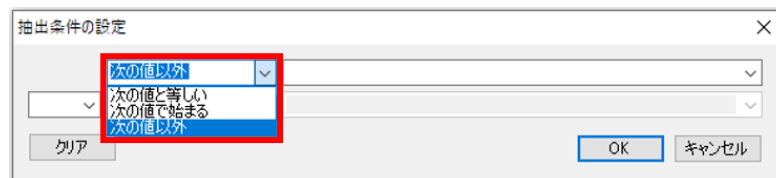
調査が実施されていないプロットを除外する場合は、以下の条件を追加してください。

- ✓ 項目：「調査の継続状況」
- ✓ 条件：「<>NULL」

② 以下のような画面が表示されます。



③ 抽出する条件を選択します。

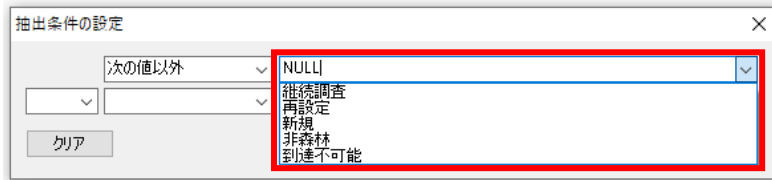


※ 項目により選択できるコンボボックスの内容が変わります。抽出する条件に表示される内容は以下のとおりです。

項目の種類	抽出条件に表示される内容	演算子
質的データ	次の値と等しい	=
	次の値で始まる	LIKE
	次の値以外	<>
量的データ	次の値と等しい	=
	次の値以下	<=
	次の値以上	>=
	次の値より小さい	<
	次の値より大きい	>

④ 抽出する値を選択します。

- ※ 項目により選択できるコンボボックスの内容が変わります。
- ※ 量的データ（数値・日付）の項目の場合は、直接、値を入力してください。
- ※ また、NULL（値無し）を条件に追加する場合は、直接「NULL」と入力してください。（質的データの項目も NULL は選択肢に表示されません。）



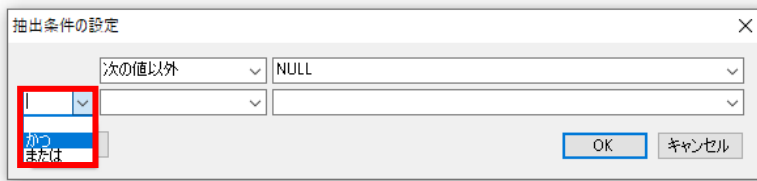
**Point**

例：選択項目が NULL（値無し）以外のプロットを抽出したい場合。

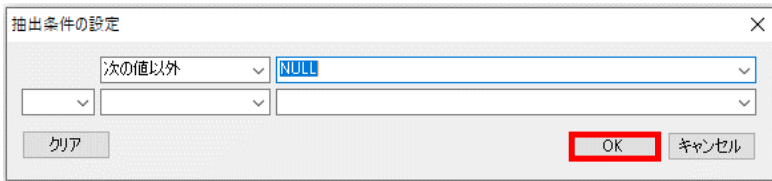
**【条件設定】**

- ✓ 「次の値以外」
- ✓ 「NULL」（直接入力）

- ※ 条件を設定すると 2 個目の条件を設定できるようになります。2 個目の条件を設定する場合は、1 個目の条件と 2 個目の条件を結ぶ条件（「かつ」または「または」）を指定してください。

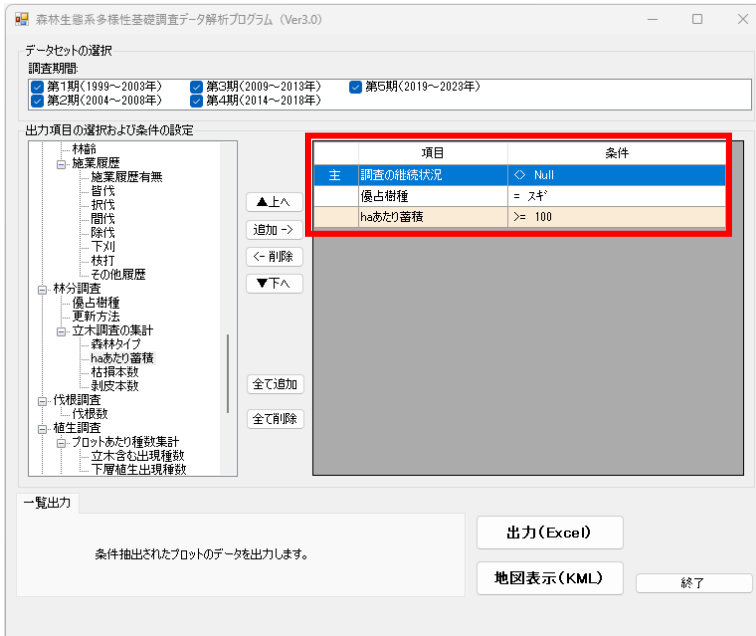


⑤ OK ボタンをクリックします。



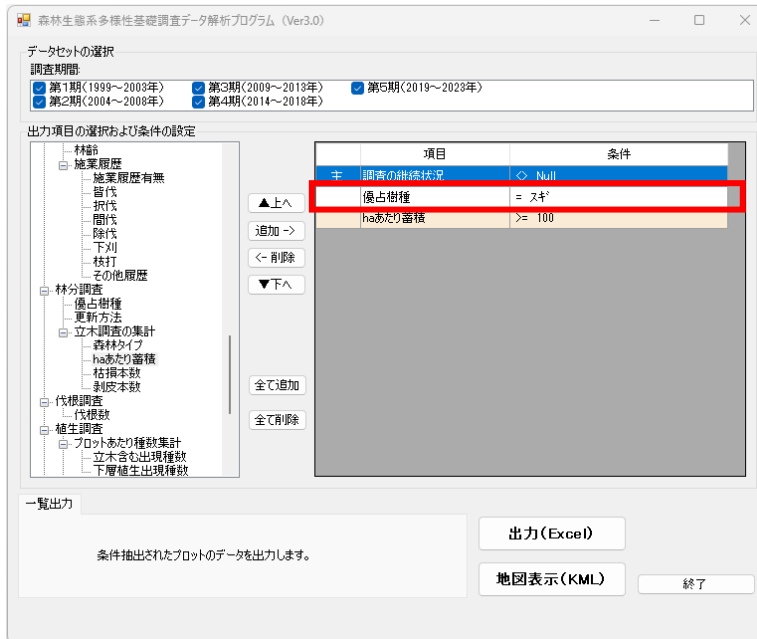
⑥ 選択済み出力項目の条件欄に抽出条件が追加されます。

- ※ 複数の項目に条件設定できます。

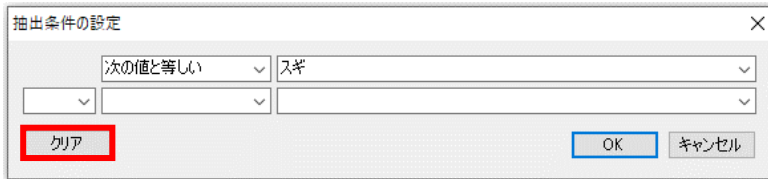


### 3.5.6. 条件設定(6) 抽出条件の削除

① 抽出条件を削除する場合は、削除したい項目の行をダブルクリックします。



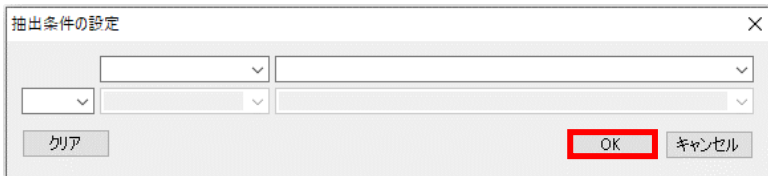
② クリアボタンをクリックします。



③ 抽出する値が削除されます。



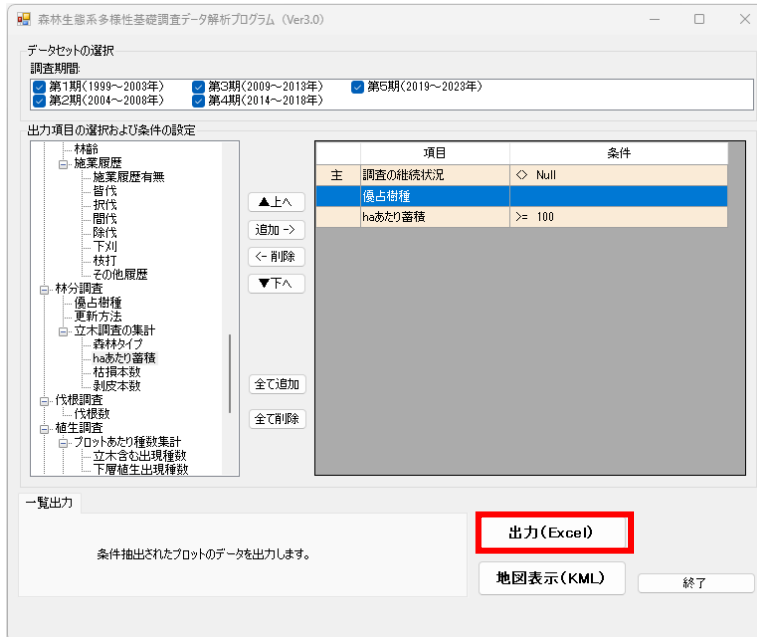
④ OK ボタンをクリックします。



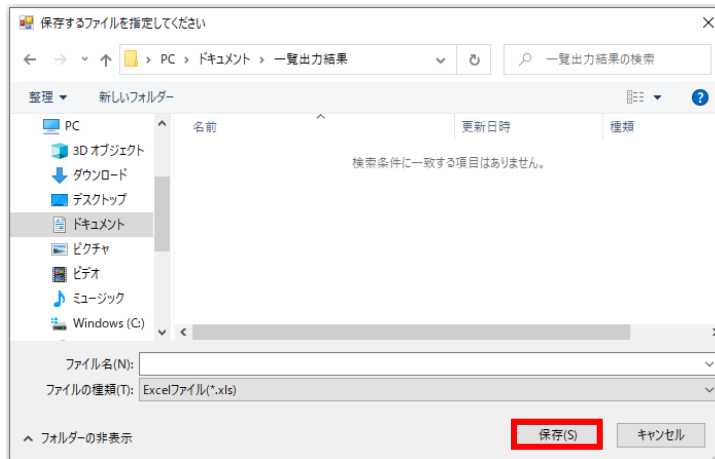
### 3.5.7. 一覧表形式での出力

データセット（調査期間）の選択、出力項目とその条件の設定に従い、Excel ファイル形式で一覧表を出力します。

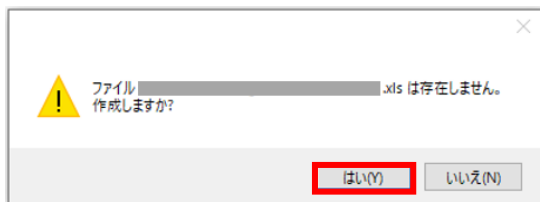
- ① 出力（Excel）ボタンをクリックします。



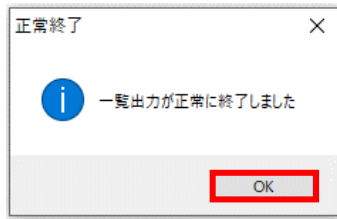
- ② 任意の保存先・保存ファイル名を指定し、保存ボタンをクリックします。



※ 新しくファイルを作成する場合は「ファイル・・・は存在しません。作成しますか?」というメッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



- ③ 「一覧出力が正常に終了しました」というメッセージが表示されたら、OK ボタンをクリックします。



- ④ Excel が起動され、一覧出力結果が表示されます。

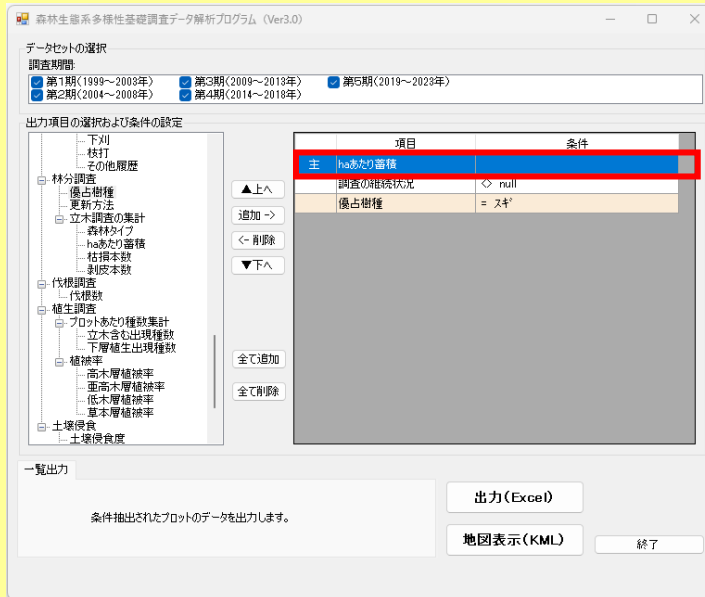
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	格子点ID	東経	北緯	調査の継続状況	優占樹種1	優占樹種2	haあたり蓄積			
1										
2	10002	139.42	42.13	継続調査	カエデ類	シナノキ	220.886			
3	10003	139.42	42.16	継続調査	ブナ		335.536			
4	10004	139.47	42.09	継続調査	ブナ		319.649			
5	10005	139.47	42.13	継続調査	ブナ	トドマツ	179.899			
6	10008	139.52	42.2	継続調査	ブナ		224.826			
7	10012	139.81	42.35	継続調査	シナノキ		242.14			
8	10015	139.86	42.31	継続調査	オヒョウ		190.4			
9	10016	139.86	42.35	継続調査	ブナ		314.661			
10	10020	139.86	42.49	新規	ミズナラ		177.685			
11	10021	139.86	42.53	継続調査	カラマツ		592.556			
12	10023	139.86	42.6	継続調査	ブナ		302.786			
13	10026	139.91	42.2	継続調査	ウダイカンバ		118.817			
14	10027	139.91	42.24	継続調査	ブナ		406.26			
15	10028	139.91	42.27	継続調査	トドマツ		283.286			
16	10031	139.91	42.38	新規	ハンノキ類	ハルニレ	110.795			
17	10035	139.91	42.53	継続調査	人工林伐採後 (トドマツ)		122.844			
18	10039	139.9	42.67	継続調査	シナノキ	イタヤカエデ	316.348			
19	10043	139.96	42.24	再設定	ブナ		298.265			
20	10044	139.96	42.27	再設定	トドマツ		255.577			
21	10046	139.96	42.35	継続調査	トドマツ		155.202			
22	10047	139.95	42.38	新規	トドマツ	ダケカンバ	274.848			
23	10049	139.95	42.45	継続調査	トドマツ		528.815			
24	10056	140.01	41.55	継続調査	カエデ類		210.255			
25	10061	140	42.17	継続調査	ブナ		228.746			
26	10064	140	42.27	継続調査	ダケカンバ		171.851			
27	10066	140	42.35	継続調査	ハルニレ		125.992			
28	10069	140	42.45	継続調査	ミズナラ	シラカンバ	134.285			
29	10070	140	42.49	継続調査	トドマツ		319.301			
30	10071	140	42.53	継続調査	ブナ		213.183			
31	10073	140	42.6	継続調査	ブナ		445.228			
32	10080	140.05	41.59	継続調査	ミズナラ		247.619			
33	10083	140.05	41.7	継続調査	ブナ		343.85			
34	10090	140.05	42.27	継続調査	トドマツ		112.643			
35	10096	140.05	42.49	継続調査	ダケカンバ		232.262			
36	10099	140.05	42.6	継続調査	ブナ		163.231			

### 3.5.8. 地図表示形式での出力

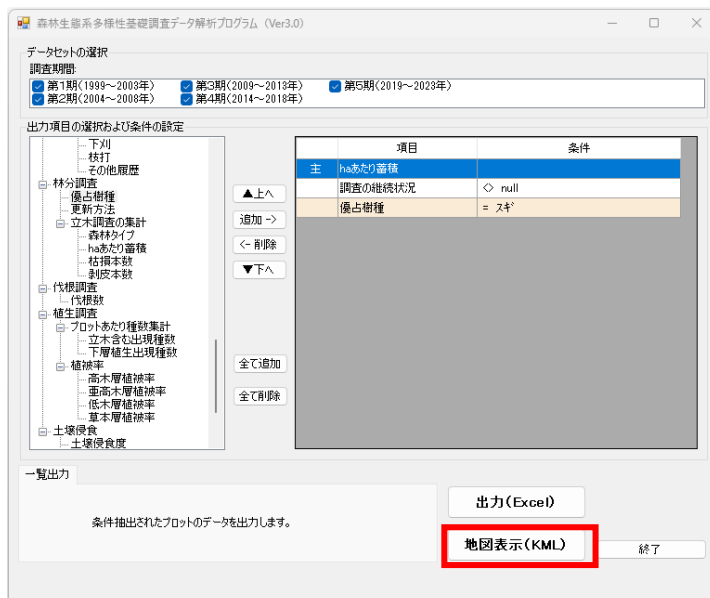
データセット（調査期間）の選択、出力項目とその条件の設定に従い、地図表示形式で出力します。

**Point** 地図表示形式で出力する際は、以下を確認してください。

- ✓ 本機能を利用する前に、Google Earth Pro 等の KML ファイルに対応した地図表示ソフトをインストールしておく必要があります。
- ✓ 出力項目リストの最上段（主項目）に設定された項目のみが地図表示形式で出力されます。
- ✓ 主項目以外の項目は抽出条件が設定されている場合に限り、抽出条件のみが出力に反映されます。

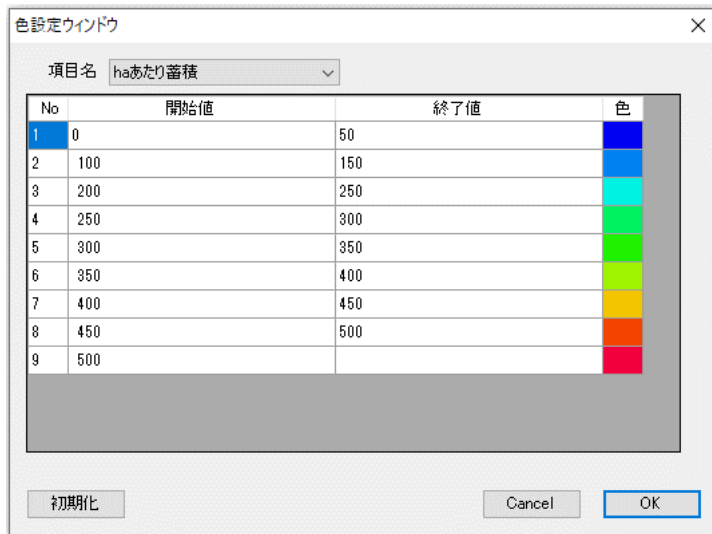


① 地図表示（KML）ボタンをクリックします。

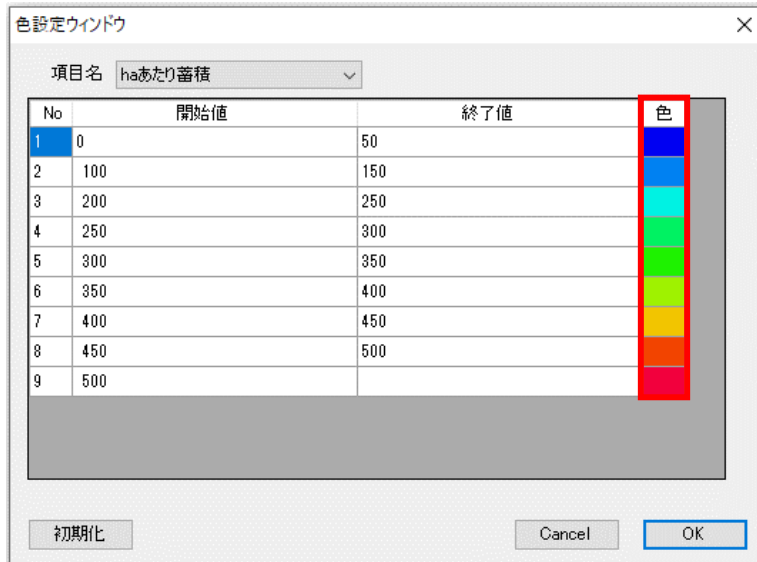


② 色設定ウィンドウが表示されます。

※ 初期設定のまま出力する場合は、このまま⑤に進んでください。



③ 色設定を変更する場合は、変更したい値の色をダブルクリックします。



④ 変更したい色を選択し、OK ボタンをクリックします。

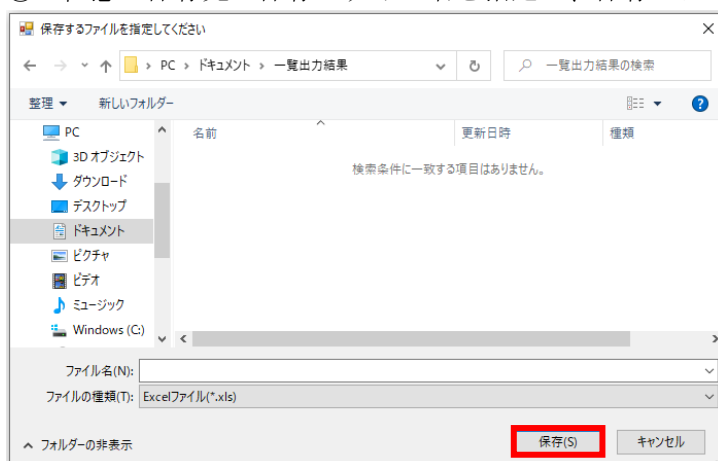


- ※ 量的データ（数値・日付）の項目に限り、色の設定が自動保存されます。（次回起動時  
も今回設定した色が反映されます。）
- ※ 色を初期設定に戻したい時は、初期化ボタンをクリックしてください。

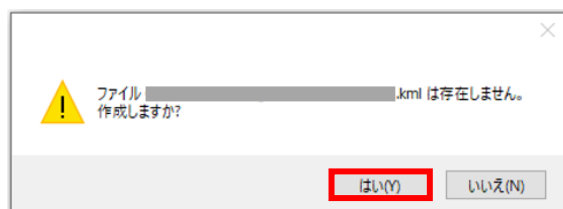
⑤ 色設定が完了したら、OK ボタンをクリックします。



⑥ 任意の保存先・保存ファイル名を指定し、保存ボタンをクリックします。



- ※ 新しくファイルを作成する場合は「ファイル・・・は存在しません。作成しますか?」というメッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



⑦ 地図表示ソフトが起動し、格子点位置が主項目の凡例ごとに色分けされて表示されます。

## 各項目における略記号について

## 1. 到達不可能理由

第1期・第2期での到達不可能理由
a 調査定点が急傾斜地で崩壊の著しいところに所在
b 調査定点が急崖上又は急崖下に所在
c 調査定点が軟泥地等通常的手段での到達の障害となる領域に囲まれて所在
d 調査定点周辺に有害ガスが発生
e 法的規制による立ち入り禁止
f その他
x 所有者の了解が得られない

第3期以降での到達不可能理由	第1期・第2期で対応する理由
a 調査定点が地形的に通常的手段で到達できないところに所在	a・b・c
b 法的規制による立ち入り禁止	e
c 現状で到達不可能だが、今後の再確認が必要	fに包含
d 一時的に到達経路等が不通又は危険な状況が発生	fに包含
e その他	d・f
x 所有者の了解が得られない	x

## 2. 法令に基づく地域指定

水涵保	水源かん養保安林	水涵見	水源かん養保安林見込み地
土流保	土砂流出防備保安林	土流見	土砂流出防備保安林見込み地
土崩保	土砂崩壊防備保安林	土崩見	土砂崩壊防備保安林見込み地
飛砂保	飛砂防備保安林	飛砂見	飛砂防備保安林見込み地
防風保	防風保安林	防風見	防風保安林見込み地
水害保	水害防備保安林	水害見	水害防備保安林見込み地
潮害保	潮害防備保安林	潮害見	潮害防備保安林見込み地
干害保	干害防備保安林	干害見	干害防備保安林見込み地
防雪保	防雪保安林	防雪見	防雪保安林見込み地
防霧保	防霧保安林	防霧見	防霧保安林見込み地
雪崩保	なだれ防止保安林	雪崩見	なだれ防止保安林見込み地
落石保	落石防止保安林	落石見	落石防止保安林見込み地
防火保	防火保安林	防火見	防火保安林見込み地
魚付保	魚つき保安林	魚付見	魚つき保安林見込み地
航行保	航行目標保安林	航行見	航行目標保安林見込み地
保健保	保健保安林	保健見	保健保安林見込み地
風致保	風致保安林	風致見	風致保安林見込み地
国特保	国立公園特別保護地区		
国特1	国立公園第1種特別地域		
国特2	国立公園第2種特別地域		
国特3	国立公園第3種特別地域		
国未特	国立公園地種区分未定の特別地域（特別保護地区相当）		
国未1	国立公園地種区分未定の特別地域（第1種相当）		
国未2	国立公園地種区分未定の特別地域（第2種相当）		
国未3	国立公園地種区分未定の特別地域（第3種相当）		
定特保	国定公園特別保護地区		
定特1	国定公園第1種特別地域		
定特2	国定公園第2種特別地域		

定特3	国定公園第3種特別地域
定未特	国定公園地種区分未定の特別地域（特別保護地区相当）
定未1	国定公園地種区分未定の特別地域（第1種相当）
定未2	国定公園地種区分未定の特別地域（第2種相当）
定未3	国定公園地種区分未定の特別地域（第3種相当）
県特1	都道府県立自然公園第1種特別地域
県特2	都道府県立自然公園第2種特別地域
県特3	都道府県立自然公園第3種特別地域
県未1	都道府県立自然公園地種区分未定の特別地域（第1種相当）
県未2	都道府県立自然公園地種区分未定の特別地域（第2種相当）
県未3	都道府県立自然公園地種区分未定の特別地域（第3種相当）
原生	原生自然環境保全地域
自環特	自然環境保全地域特別地区
自環野	自然環境保全地域野生動植物保護地区
県環特	都道府県自然環境保全地域特別地区
県環野	都道府県自然環境保全地域野生動植物保護地区
国普通	国立公園普通地域
定普通	国定公園普通地域
県普通	都道府県立自然公園普通地域
自環普	自然環境保全地域普通地区
県環普	都道府県自然環境保全地域普通地区
保安施	保安施設地区
砂防指	砂防指定地
鳥保特	鳥獣保護区特別保護地区
漁業制	漁業法に基づく制限林
史名天	文化財保護法に基づく史跡名勝天然記念物
特史跡	文化財保護法に基づく特別史跡名勝天然記念物
ぼた山	地すべり等防止法に基づくぼた山崩壊防止区域
古都特	古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区
風致地	都市計画法に基づく風致地区
傾斜崩	急傾斜地崩壊防止法に基づく急傾斜地崩壊危険区域
特母樹	林業種苗法に基づく特別母樹・特別母樹林
緑地保	都市緑地保全法による緑地保全地区
風土保	明日香村保存法に基づく歴史的風土保存地区（第1種及び第2種）
絶管理	種の保存法に基づく生息地等保護区管理地区
絶特別	種の保存法に基づく生息地等保護区管理地区（特別制限地区）
絶立入	種の保存法に基づく生息地等保護区管理地区（立入制限地区）
絶特立	種の保存法に基づく生息地等保護区管理地区（特別/立入制限地区）
鳥保普	鳥獣保護区
建造保	文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区
地すべ	地すべり等防止法に基づく地すべり防止区域
古都歴	古都保存法に基づく歴史的風土保存区域
都市公	都市計画法に基づく都市計画区域
普母樹	林業種苗法に基づく育種又は普通母樹・母樹林
首都緑	首都圏緑地保全法に基づく近郊緑地保全区域
近緑地	近畿圏の保全区域の整備に関する法に基づく近郊緑地保全区域
河川区	河川法に基づく河川区域
河川保	河川法に基づく河川保全区域
生産緑	生産緑地法に基づく生産緑地地区
港湾区	港湾法に基づく臨港地区
絶監視	種の保存法に基づく生息地等保護区監視地区
世自遺	世界遺産条約に基づく世界自然遺産登録地
その他	その他

### 3. 法令以外の地域指定

生保存	森林生態系保護地域保存地区
生保利	森林生態系保護地域保全利用地区
生遺保	森林生物遺伝資源保存林
林遺保	林木遺伝資源保存林
植群保	植物群落保護林
特動保	特定動物生息地保護林
地理保	特定地理等保護林
郷土森	郷土の森
緑回廊	緑の回廊
レク教育	レクリエーションの森（自然観察教育林）
レク森ス	レクリエーションの森（森林スポーツ林）
レク野ス	レクリエーションの森（野外スポーツ施設）
レク風景	レクリエーションの森（風景林）
レク探勝	レクリエーションの森（風致探勝林）
レク休養	レクリエーションの森（自然休養林）
条例指	都道府県条例による指定森林
保機能	保健機能森林
その他	その他

### 4. 土壌侵食度

土壌侵食度（第1期・第2期のみ）	
0	A <sub>0</sub> 層（有機物層）が全面を覆っている。
1	A <sub>0</sub> 層（有機物層）の一部が流亡している（ガリーは認められない）。
2	A <sub>0</sub> 層（有機物層）が50%に満たない（ガリーは認められない）。
3	ガリーが一部で見られる。
4	全面にガリーが見られる。

(以上)